

伝道者の書 または伝道者

¹ ダビデの子で、エルサレムの王であつた伝道者の言葉。

² 「空しさの極みだ」と伝道者は言う。「空しさの極みだ。すべては空しい。」

³ 人は日の下で重ねるすべての労苦から、何の益を得るのか。

⁴ 世代は去り、世代は来る。しかし、地はいつまでも残る。

⁵ 太陽は昇り、太陽は沈み、再び昇る場所へ急いで戻る。

⁶ 風は南へ吹き、北へ巡り、巡り巡って、またその巡路に戻る。

⁷ すべての川は海へ流れ込むが、海は満ちることがない。川は流れ込むその場所へ、絶えず流れ続ける。

⁸ すべては疲れに満ち、言葉では言い尽くせない。目は見ても満足せず、耳は聞いても満たされない。

⁹ かつてあつたものは、これからもあり、かつて行われたことは、これからも行われる。日の下に新しいものは何もない。

¹⁰ 「見よ、* これは新しい」と言えるものがあるだろうか。それは、われわれより前の時代に、すでに存在していた。

¹¹ 先にあつたものは覚えられず、後に起こることも、その後に来る者たちには覚えられない。

* 1:10:10 「見よ」は、注意を促して「見なさい」「よく見よ」の意味を表す間投詞。

12 私、伝道者は、エルサレムでイスラエルの王であつた。

13 私は心を傾け、天の下で行われるすべてのことを、知恵によって探り、調べた。これは、神が人に与えて苦勞させる重い務めである。[†]

14 私は日の下で行われるすべてのわざを見た。見よ、すべては空しく、風を追うようなものだった。

15 曲がったものをまっすぐにすることはできず、欠けているものを数えることもできない。

16 私は心の中で言った。「見よ、私は、私より前にエルサレムにいたすべての者にまさる、大いなる知恵を得た。私の心は、豊かな知恵と知識を身につけた。」

17 私は心を傾け、知恵を究め、狂気と愚かさをも知ろうとした。しかし、これも風を追うようなものだと思つた。

18 知恵が増せば悩みも増し、知識を増す者は悲しみを増す。

2

1 私は心の中で言った。「さあ、楽しみで自分を試し、快樂を味わってみよう。」しかし、見よ、これも空しかった。

2 私は笑いについて、「これは愚かだ」と言い、楽しみについて、「これは何を成し遂げるのか」と言った。

3 私は心の中で、知恵に導かれながら、ぶどう酒で身を楽しませ、愚かさをつかんでみようと探つた。人が生きる日の間、天の下で何をするのが良いのかを見極めるためだった。

[†] 1:131:13 「神」と訳されたヘブル語は「אֱלֹהִים」（エロヒム）である。

4 私は大きな事業を行った。自分のために家々を建て、ぶどう畑を植えた。

5 自分のために庭園や公園を造り、その中にあらゆる種類の果樹を植えた。

6 木々が育つ森を潤すために、貯水池を造った。

7 男の奴隷と女の奴隷を買い、家で生まれた奴隷もいた。また、エルサレムで私より前にいたすべての者にまさるほど、多くの牛や羊の群れを所有した。

8 自分のために銀と金、王たちや諸州の財宝を集めた。男の歌い手と女の歌い手を得、人間の喜びである、あらゆる種類の楽器も手に入れた。

9 こうして私は偉大になり、エルサレムで私より前にいたすべての者にまさった。それでも、私の知恵は私のもとにとどまっていた。

10 私は、自分の目が欲するものを何一つ拒まず、自分の心からどんな喜びも遠ざけなかった。すべての労苦が私の心を喜ばせた。それが、すべての労苦から得た私の取り分だった。

11 しかし、私は自分の手が行ったすべてのわざと、それを成し遂げるために費やした労苦を振り返った。見よ、すべては空しく、風を追うようなもので、日の下には何の益もなかった。

12 私は向きを変え、知恵と狂気と愚かさについて考えた。王の後に来る者に何ができるだろう。昔から行われてきたことを繰り返すだけではないか。

13 私は、光が闇にまさるように、知恵が愚かさにもまさることを見た。

14 知恵ある者の目はその頭にあるが、愚かな者は闇の中を歩く。しかし、どちらにも同じ出来事が起こるのを、私は悟った。

15 そこで私は心の中で言った。「愚かな者に起こることは、私にも起こる。それなら、なぜ私はこれほど知恵を求めたのか。」私は心の中で、これも空しいと言った。

16 知恵ある者も愚かな者と同じく、いつまでも記憶されることはない。来るべき日々には、すべてが久しく忘れ去られる。実に、知恵ある者も愚かな者と同じように死ななければならない。

17 そこで私は生きることを憎んだ。日の下で行われる働きは、私には苦痛だった。すべては空しく、風を追うようなものだった。

18 私は、日の下で費やしたすべての労苦を憎んだ。それを、私の後に来る者に残さなければならない。

19 その者が知恵ある者になるのか、愚かな者になるのか、誰が知っているだろう。それでも、その者は、私が日の下で労苦し、知恵を用いて成し遂げたすべてのものを支配することになる。これも空しい。

20 そこで私は、日の下で費やしたすべての労苦を思い、心は絶望に沈んだ。

21 知恵と知識と技能をもって労苦する人がいても、その人は、そのために何も労苦しなかった者に、それを取り分として残さなければならない。これも空しく、大きな悪である。

22 人は、日の下で費やすすべての労苦と、心を悩ませることから、何を得るのか。

23 その人のすべての日々は悲しみで、その労苦は苦悩である。夜になっても、その心は休まらない。これも空しい。

24 人にとって、食べて飲み、自分の労苦のうちに良いものを味わうこと以上に良いことはない。これもまた神の手から来ることを、私は見た。

25 私以上に、誰が食べ、誰が楽しむことができるだろう。

26 神は、ご自分に喜ばれる人には知恵と知識と喜びを与える。しかし罪人には、集めて蓄えさせ、それを神に喜ばれる人に与えさせるという苦勞を与える。これも空しく、風を追うようなものである。

3

1 すべてのことには時期があり、天の下のすべての営みには時がある。

2 生まれる時があり、
死ぬ時がある。

植える時があり、
植えたものを抜く時がある。

3 殺す時があり、
癒やす時がある。

壊す時があり、
建てる時がある。

4 泣く時があり、
笑う時がある。

嘆く時があり、
踊る時がある。

5 石を投げ捨てる時があり、
石を集める時がある。

抱く時があり、
抱くことを控える時がある。

6 捜す時があり、
失う時がある。

保つ時があり、
投げ捨てる時がある。

7 引き裂く時があり、
縫う時がある。

黙る時があり、

語る時がある。

8 愛する時があり、
憎む時がある。

戦争の時があり、
平和の時がある。

9 働く者は、その労苦から何の益を得るのか。

10 私は、神が人に与えて苦勞させる務めを見た。

11 神は、すべてをその時にかなって美しくした。また、人の心に永遠を置いた。それでも人は、神が初めから終わりまで行ったみわざを見極めることができない。

12 私は、人にとって、生きている間に喜び、良いことを行う以上に良いことはないと知っている。

13 また、すべての人が食べて飲み、すべての苦のうちに良いものを味わうことは、神からの賜物である。

14 私は、神が行うことはすべて永遠に続く知っている。それに何かを加えることも、そこから何かを取り去ることもできない。神がそうしたのは、人々が神を恐れるためである。

15 今あるものは、すでに昔からあり、これからあるものも、すでに昔からあった。神は、過ぎ去ったものを呼び戻される。

16 さらに私は日の下で、裁きの場に悪があり、義の場にも悪があるのを見た。

17 私は心の中で言った。「神は義人と悪人を裁かれる。そこには、すべての営みとすべての行いのために、それぞれ時がある。」

18 私は心の中で言った。「人について、神が彼らを試されるのは、彼ら自身が獣と変わらないことを悟らせるためだ。」

19 人にも獣にも、同じことが起こる。一方が死ぬように、他方も死ぬ。どちらにも同じ息があり、人は獣にまさるところがない。すべては空しい。

20 すべては同じ場所へ行く。すべてはちりから出て、すべては再びちりに帰る。

21 誰が知っているだろう。人の霊は上へ昇り、獣の霊は地へ下るのか。」

22 そこで私は、人が自分の行いを喜ぶ以上に良いことはないを見た。それがその人の取り分である。その人を連れ戻して、自分の後に起こることを見せられる者がいるだろうか。

4

1 私は再び、日の下で行われているすべての虐げを見た。見よ、虐げられている者たちの涙があつたが、彼らには慰める者がいなかった。彼らを虐げる者たちの側には力があつたが、彼らには慰める者がいなかった。

2 そこで私は、まだ生きている者よりも、すでに死んでいる者を幸いだとした。

3 しかし、その両者よりも幸いなのは、まだ生まれておらず、日の下で行われる悪い働きを見ていない者である。

4 また私は、あらゆる労苦と巧みな仕事で、隣人へのねたみから生じるのを見た。これも空しく、風を追うようなものである。

5 愚かな者は腕を組み、自滅する。

6 静けさとともにある片手いっぱいには、労苦して風を追う両手いっぱいにはまさる。

7 私は再び、日の下にある空しさを見た。

8 一人きりで、息子も兄弟もいない者がいる。その人のすべての労苦には終わりがなく、その目は富を見ても満足しない。「私はいったい誰の

ために労苦し、自分から楽しみを奪っているのか。」これも空しい。実に、痛ましい務めだ。

⁹二人は一人にまさる。二人には、その労苦に対する良い報いがある。

¹⁰もし倒れても、一人が仲間を起こすことができる。しかし、倒れた時に起こしてくれる者のいない独りの人は災いだ。

¹¹また、二人が一緒に横になれば暖かくなる。しかし、一人でどうして暖かくなれるだろう。

¹²一人を打ち負かす者がいても、二人ならその者に立ち向かうことができる。三つ撚りの綱は、簡単には切れない。

¹³もはや忠告を受け入れることも知らない、年老いた愚かな王よりも、貧しくても知恵のある若者のほうが良い。

¹⁴その若者は牢獄から出て王となった。実に、彼は自分の王国で貧しく生まれた者だった。

¹⁵私は、日の下を歩むすべての生きている者が、王の後継者となったもう一人の若者に従うのを見た。

¹⁶彼に従う民は数え切れなかった。それでも、後の世代は彼を喜ばない。確かに、これも空しく、風を追うようなものである。

5

¹神の家へ行くときは、自分の足に気をつけよ。愚かな者のようにいけにえをささげるより、近づいて聞くほうが良い。彼らは、自分たちが悪を行っていることさえ知らない。

²口を軽々しく開いてはならない。神の前で何かを口にしようと、心を急がせてはならない。神は天におられ、あなたは地にいる。それゆえ、言葉を少なくせよ。

3 多くの心配から夢が生じるように、多くの言葉から愚かな者の話が生じる。

4 神に誓願を立てるときは、それを果たすのを遅らせてはならない。神は愚かな者を喜ばれない。誓ったことを果たせ。

5 誓願を立てて果たさないよりは、誓願を立てないほうが良い。

6 自分の口によって罪に陥ってはならない。使者の前で、「これは間違いでした」と言ってはならない。なぜあなたの言葉で神を怒らせ、あなたの手の働きを滅ぼされるのか。

7 多くの夢と多くの言葉には空しさがある。だが、あなたは神を恐れよ。

8 ある地方で、貧しい者が虐げられ、裁きと義が踏みにじられているのを見ても、そのことに驚いてはならない。高官はさらに上の者に見張られており、その上にも高官たちがいるからである。

9 地の産物はすべての者の益となり、王さえ畑に養われる。

10 銀を愛する者は銀で満足せず、富を愛する者は収入が増えても満足しない。これも空しい。

11 財産が増えれば、それを食べる者も増える。その所有者にとって、それを目で眺めて楽しむこと以外に何の益があるのか。

12 働く者の眠りは、食べるものが少なくても多くても心地よい。しかし、富む者はその豊かさのために眠ることができない。

13 私は日の下で、痛ましい悪を見た。所有者が自分の害となるまで富を蓄えていることである。

14 その富は不幸な出来事によって失われる。彼に息子が生まれても、その手には何も残っていない。

15 人は母の胎から裸で出て来たように、再び裸で去って行く。その労苦によって得たものを、手に携えて行くことはできない。

16 これも痛ましい悪である。人は来たときと全く同じように去って行く。風を追って労苦する者に、何の益があるのか。

17 その人は一生、闇の中で食べ、大いにいらだち、病み、怒る。

18 見よ、私が良い、またふさわしいと見たのは、神から与えられた命の日々の間、人が日の下で重ねるすべての労苦のうちに、食べ、飲み、良いものを味わうことである。これがその人の取り分である。

19 また、神が富と財産を与え、それを味わい、自分の取り分を受け取り、自分の労苦を喜ぶ力を与えたすべての人にとって、これは神からの賜物である。

20 その人は自分の生涯の日々をあまり思い返すことがない。神がその心を喜びで満たすからである。

6

1 私は日の下で一つの悪を見た。それは人間に重くのしかかる。

2 神から富と財産と誉れを与えられ、心が望むものを何一つ欠いていないのに、神からそれを味わう力を与えられず、見知らぬ者がそれを味わう人がいる。これは空しく、痛ましい災いである。

3 たとえ人が百人の子をもうけ、多くの年月を生き、その日数がどれほど長くても、その心が良いもので満たされず、しかも葬られることもないなら、私は、死産の子のほうがその人よりも良いと言う。

4 その子は空しさのうちに来て、闇のうちに去り、その名は闇に覆われる。

⁵ その子は太陽を見たことも、それを知ったこともない。それでも、その子のほうがその人より安らかである。

⁶ たとえその人が二千年生きても、良いものを味わえないなら、すべての者は同じ場所へ行くのではないか。

⁷ 人のすべての労苦はその口のためである。それでも、食欲は満たされない。

⁸ 知恵ある者は、愚かな者より何のまさるところがあるのか。また、人前でどう生きるべきかを知る貧しい者に、何の益があるのか。

⁹ 欲望をあちこちにさまよわせるより、目の前にあるものを見るほうが良い。これも空しく、風を追うようなものである。

¹⁰ 何であれ、すでにその名は付けられ、人が何者であるかも知られている。人は自分より力のある者と争うことはできない。

¹¹ 言葉が多ければ、空しさも増す。人に何の益があるのか。

¹² 影のように過ぎ去る空しい生涯の日々に、人にとって何が良いかを誰が知っているだろう。日の下で、その人の後に何が起こるかを、誰がその人に告げることができるだろう。

7

¹ 良い名は上質な香油にまさり、死ぬ日は生まれる日にまさる。

² 宴会の家へ行くより、喪の家へ行くほうが良い。死はすべての人の終わりであり、生きている者はそれを心に留めるべきだ。

³ 悲しみは笑いにまさる。顔の悲しみが心を整える。

⁴ 知恵ある者の心は喪の家にあり、愚かな者の心は喜びの家にある。

⁵ 愚かな者の歌を聞くより、知恵ある者の叱責を聞くほうが良い。

⁶ 鍋の下でいばらがはぜる音のように、愚かな者の笑いも空しい。これも空しい。

⁷ 虐げは知恵ある者を愚かにし、賄賂は理解力を滅ぼす。

⁸ 物事の終わりは、その始まりにまさる。

忍耐強い心は、高ぶる心にまさる。

⁹ 心のうちで性急に怒ってはならない。怒りは愚かな者の胸に宿る。

¹⁰ 「なぜ昔の日々は今より良かったのか」と言ってはならない。それは知恵から出た問いではない。

¹¹ 知恵は相続財産と同じように良い。実に、太陽を見る者たちにとって、知恵はさらに優れている。

¹² 知恵は盾となり、金も盾となる。しかし、知識の優れたところは、知恵がそれを持つ者の命を保つことにある。

¹³ 神のみわざをよく考えよ。神が曲げたものを、誰がまっすぐにできるだろう。

¹⁴ 順境の日には喜び、逆境の日にはよく考えよ。神は一方を他方と並べて造られた。人が自分の後に起こることを何一つ見いだせないように。

¹⁵ 私は空しい生涯の日々に、これらすべてを見た。義を行いながら滅びる義人がおり、悪を行いながら長生きする悪人がいる。

¹⁶ 自分を正しい者としすぎるな。また、自分を知恵ある者としすぎるな。なぜ自らを滅ぼすのか。

¹⁷ 悪にふけるな。また、愚かであってはならない。なぜ自分の時が来る前に死ぬのか。

¹⁸ 一方をしっかりとつかみ、他方からも手を放さないのが良い。神を恐れる者は、そのどちらにも捕らわれない。

19 知恵は、町にいる十人の支配者よりも、知恵ある者を強くする。

20 地上には、善を行い、罪を犯さない義人は一人もいない。

21 人々の語ることに、いちいち心を留めてはならない。自分のしもべがあなたを呪うのを聞くこともある。

22 あなた自身も同じように他の人々を呪ったことを、あなたの心は何度も知っているからである。

23 私はこれらすべてを知恵によって確かめた。私は「知恵ある者になろう」と言ったが、知恵は私から遠く離れていた。

24 今あるものは遠く、極めて深い。誰がそれを見いだせるだろう。

25 私は向きを変え、心を傾けて、知り、探り、知恵と物事の道理を求め、悪は愚かさであり、愚かさは狂気であることを知ろうとした。

26 私は、死よりも苦い女を見いだした。その心はわなと網であり、その手は鎖である。神に喜ばれる者は彼女から逃れるが、罪人は彼女に捕らえられる。

27 伝道者は言う。「見よ、私は一つ一つを照らし合わせ、結論を見いだそうとして、これを見いだした。

28 私はなおも求めているが、まだ見いだしていない。私は千人のうちに一人の男を見いだしたが、そのすべてのうちに一人の女も見いださなかった。

29 見よ、私が見いだしたのは、ただこれだけである。神は人間をまっすぐな者に造ったが、彼らは多くの策略を考え出した。」

8

1 誰が知恵ある者に並び、誰が物事の意味を知るだろう。人の知恵はその顔を輝かせ、顔の陰しさ

を和らげる。

² 私は言う。「神にかけた誓いのゆえに、王の命令を守りなさい。」

³ 王の前から性急に立ち去るな。悪事に固執するな。王は自分の望むことを何でも行う。

⁴ 王の言葉には権威がある。誰が王に、「何をしているのですか」と言えるだろう。

⁵ 命令を守る者は害を受けない。知恵ある者の心は、時と手順をわきまえる。

⁶ たとえ人の苦悩が重くのしかかっているとしても、すべての目的には時と手順がある。

⁷ 人はこれから起こることを知らない。どのように起こるかを、誰がその人に告げられるだろう。

⁸ 自分の息を引き止める力を持つ者はいない。死の日を支配する力もない。戦いに除隊はなく、悪は悪を行う者を救わない。

⁹ 私はこれらすべてを見て、日の下で行われるすべての働きに心を向けた。人が人を支配して、害を与える時がある。

¹⁰ そこで私は、悪人たちが葬られるのを見た。彼らは聖なる場所に出入りし、そのように振る舞った町で忘れられていった。これも空しい。

¹¹ 悪い行いに対する判決が速やかに執行されないため、人の心は悪を行うことに傾く。

¹² 罪人が百回悪を行い、長生きするとしても、神を恐れ、その前で畏敬を抱く者たちには良いことがあると、私は確かに知っている。

¹³ しかし、神を恐れない悪人には良いことがなく、その日々も影のようで、長くなることはない。

¹⁴ 地上で行われる空しいことがある。悪人にふさわしい報いが義人に起こり、義人にふさわしい報いが悪人に起こる。私は、これも空しいと言った。

15 そこで私は喜びをほめた。人にとって日の下では、食べ、飲み、喜ぶこと以上に良いことはないからである。その喜びは、神が日の下で与えた生涯の日々の間、その人の労苦に伴う。

16 私が心を傾けて知恵を知り、地上で行われる営みを見ようとしたとき、昼も夜も眠らない者さえいるのを見た。

17 私は神のすべてのみわざを見た。人は日の下で行われるみわざを見いだすことができない。どれほど労苦して探し求めても、それを見いだせない。たとえ知恵ある者が理解できると思っても、それを見いだすことはできない。

9

1 私はこれらすべてを心に留め、そのすべてを探った。義人も知恵ある者も、その行いも、神の手の中にある。愛されるのか憎まれるのか、人には分からない。すべては彼らの行く手にある。

2 すべての者に同じことが起こる。義人にも悪人にも、善人にも、清い者にも汚れた者にも、いけにえをささげる者にも、ささげない者にも、同じ運命が臨む。善人も罪人も同じであり、誓う者も、誓いを恐れる者も同じである。

3 日の下で行われるすべてのことの中に、この悪がある。すべての者に同じ運命が臨む。人間の心は悪に満ち、生きている間、その心には狂気がある。その後、彼らは死者のもとへ行く。

4 生きている者の列に加わっている限り、希望がある。生きている犬は、死んだ獅子にまさる。

5 生きている者は、自分が死ぬことを知っている。しかし、死者は何も知らず、もはや報いを受けることもない。彼らは記憶からも消える。

6 彼らの愛も憎しみもねたみも、すでに滅び去った。日の下で行われるどのようなことにも、彼らは二度と永遠に関わることがない。

7 さあ、喜びをもってパンを食べ、楽しい心でぶどう酒を飲みなさい。神はすでにあなたの行いを受け入れておられる。

8 あなたの衣をいつも白くし、頭に油を欠かしてはならない。

9 日の下で神があなたに与えた空しい生涯のすべての日々を、愛する妻とともに喜んで暮らしたい。あなたの空しい生涯のすべての日々において、これが、あなたの人生と日の下での労苦から受ける取り分である。

10 あなたの手にできることは何でも、力を尽くして行いなさい。あなたが向かっているよみ*には、働きも、計画も、知識も、知恵もないからである。

11 私は再び日の下で見た。競走は速い者のものではなく、戦いは強い者のものでもない。パンは知恵ある者のものではなく、富は悟りある者のものでもなく、好意は熟練した者のものでもない。時と偶然がすべての者に臨むからである。

12 人は自分の時を知らない。魚が災いの網に捕らえられ、鳥がわなにかかるように、人間も災いの時が突然襲うと、そのわなに捕らえられる。

13 私はまた、日の下でこのような知恵を見た。それは私には偉大なものと思われた。

14 小さな町があり、その中にはわずかな人しかいなかった。そこへ大王が攻めて来て、町を包囲し、それに対して大きな攻城堡を築いた。

15 その町に、貧しいが知恵のある人がいた。彼はその知恵によって町を救った。しかし、その貧しい人を覚えている者は誰もいなかった。

* 9:10 9:10 よみ（シェオル）は死者の場所である。

16 そこで私は言った。「知恵は力にまさる。」それでも、貧しい人の知恵は軽んじられ、その言葉は聞かれない。

17 静かに聞かれる知恵ある者の言葉は、愚かな者たちの中で支配する者の叫び声にまさる。

18 知恵は戦いの武器にまさる。しかし、一人の罪人が多くの善を滅ぼす。

10

1 死んだハエは、香料職人の香油を腐らせ、悪臭を放たせる。

わずかな愚かさも、知恵と誉れにまさって重い。

2 知恵ある者の心は右にあり、愚かな者の心は左にある。

3 愚かな者は道を歩いている時でさえ悟りを欠き、その愚かさを皆にさらす。

4 支配者の怒りがあなたに向かって起こっても、自分の場所を離れてはならない。穏やかさは大きな過ちを鎮める。

5 私は日の下で一つの悪を見た。それは支配者から出る過ちである。

6 愚かさが高い地位に置かれ、富む者が低い場所に座っている。

7 私は、奴隷たちが馬に乗り、君主たちが奴隷のように地上を歩くのを見た。

8 穴を掘る者はそこに落ち、石垣を崩す者は蛇にかまれる。

9 石を切り出す者は石で傷つき、薪を割る者には危険が伴う。

10 斧が鈍く、その刃を研がなければ、さらに力を使わなければならない。しかし、知恵は成功をもたらす。

11 蛇が呪文をかけられる前にかむなら、蛇使いに何の益もない。

12 知恵ある者の言葉は恵みに満ちる。しかし、愚かな者は自分の唇に呑み込まれる。

13 その口から出る言葉の始まりは愚かさであり、その話の終わりは害をもたらす狂気である。

14 愚かな者は言葉を重ねる。

人は、これから何が起こるかを知らない。自分の後に起こることを、誰がその人に告げられるだろう。

15 愚かな者の労苦は彼を疲れ果てさせる。町への道さえ知らない。

16 国よ、あなたの王が子どもで、高官たちが朝から食べるなら、あなたは災いである。

17 国よ、あなたの王が高貴な家柄の子で、高官たちが適切な時に、力を得るために食べ、酔うためではないなら、あなたは幸いである。

18 怠ければ屋根は落ち込み、手をこまねけば家は雨漏りする。

19 宴会は笑いのために設けられ、ぶどう酒は人生を喜ばせる。金はすべてに答える。

20 心の中でさえ王を呪ってはならない。寝室でも富む者を呪ってはならない。空の鳥があなたの声を運び、翼あるものがそのことを告げる。

11

1 あなたのパンを水の上に投げよ。

多くの日を経て、あなたはそれを見いだす。

2 分け前を七人に、いや八人にも与えよ。

- 地上にどのような災いが起こるか、あなたには分からない。
- 3 雲が雨で満ちれば、地上に雨を降らせる。
木が南に倒れても、北に倒れても、
木は倒れた場所にそのままある。
- 4 風を観察する者は種を蒔かず、
雲を見つめる者は刈り入れをしない。
- 5 あなたは風の道を知らず、
身ごもった女の胎内で骨がどのように形づくられるかも知らない。
それと同じように、すべてを行う神のみわざを、あなたは知らない。
- 6 朝に種を蒔き、
夕べにも手を休めるな。
こちらとあちらのどちらが栄えるのか、
それとも両方とも同じように良いのか、あなたには分からない。
- 7 まことに、光は甘く、
太陽を見ることは目に心地よい。
- 8 人が多くの年月を生きるなら、そのすべてを喜べ。
しかし、闇の日々をも覚えよ。それらは多くなる。
これから来るものはすべて空しい。
- 9 若者よ、若さを喜び、
若い日に心を楽しませよ。
自分の心の道を歩め。
自分の目の見るところに従え。
しかし、これらすべてについて、神があなたを裁かれることを知れ。
- 10 それゆえ、心から悲しみを取り除け。
肉体から悪を遠ざけよ。
若さも人生の夜明けも空しい。

12

- 1 あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。
災いの日々が来ず、
「何の喜びもない」と言う年月が近づかないうちに。
- 2 太陽と光、月と星が暗くなり、
雨の後に再び雲が戻る前に。
- 3 家を守る者たちが震え、
力ある男たちが腰を曲げ、
粉をひく者たちは少なくなって仕事をやめ、
窓から眺める者たちの目が暗くなる日に。
- 4 通りに面した戸が閉ざされ、
粉をひく音が低くなり、
鳥の声で目を覚まし、
歌う娘たちの声がみな低くなる日に。
- 5 また、人は高い所を恐れ、
道には恐ろしいものがあり、
アーモンドの木は花を咲かせ、
バッタは重荷となり、
欲望は萎える。
人は永遠の家へ行き、
嘆く者たちは通りを歩き回る。
- 6 銀のひもが切れ、
金の器が碎かれ、
泉のそばで水がめが割れ、
井戸の滑車が壊れる前に。
- 7 ちりは元のように地へ帰り、
霊はそれを与えられた神のもとへ帰る。
- 8 「空しさの極みだ」と伝道者は言う。
「すべては空しい。」
- 9 さらに、伝道者は知恵ある者だったので、
民に知識を教え続けた。彼は多くの箴言をよく
考え、探り、順序よく整えた。

10 伝道者は心にかなう言葉を見いだし、真理の言葉を正しく書き記そうとした。

11 知恵ある者たちの言葉は突き棒のようであり、集会を導く者たちの言葉は、しっかり打ち込まれた釘のようである。それらは一人の羊飼いから与えられた。

12 さらに、わが子よ、これらを心に留めよ。多くの書物を作ることには終わりがなく、多く学ぶことは肉体を疲れさせる。

13 これが事の結論である。すべてを聞いたうえで、神を恐れ、その戒めを守れ。これが人の務めのすべてである。

14 神は、隠されたこともすべて含め、すべての行いを裁かれる。それが良いことであっても、悪いことであっても。

フリーダム・バイブル
**The Holy Bible in the Japanese Language, Freedom
Bible translation**

Public Domain

Language: 日本語 (Japanese)

この聖書翻訳には著作権が設定されていません。この聖書翻訳の公式な配布元は eBible.org です。これは翻訳の草案です。この聖書翻訳をより良いものにするため、改善のご提案を ebible.org+jpnm@gmail.com までお寄せください。

2026-07-24

PDF generated using Haiola and XeLaTeX on 29 Jul 2026 from source files dated 24 Jul 2026

8daadcbf-1b7a-51a2-98ce-7e95a9e95424